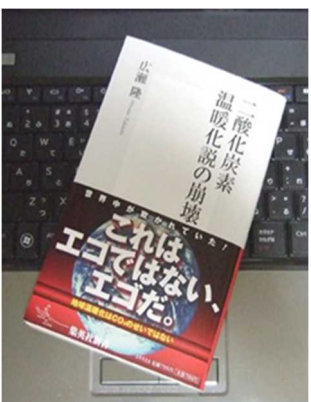


『「脱炭素」に騙されなかったために』を読んで下なる皆々へ

いま世界では、急激な地球温暖化が進行中で、将来大変な事態になると言われています。そしてその原因は、人間が造り出した温室効果ガス(二酸化炭素やメタンガス)のためだとされています。そして地球の、また子どもたちの未来のために温室効果ガスの削減は絶対的な正義だとされ、したがって世界の人々は一致してそれに協力すべきだというような風潮になっています。

しかしながら、一方で地球温暖化は温室効果ガスによるものではない、あるいは、現在地球が温暖化していることやそれがずっと続くことに疑問を持つ科学者が少なからずいることも事実です。ただその人たちの議論や考え方がマスコミなどで一切取り上げられないために、そのことを知っている人はあまり多くありません。

私たちはそうした研究者の書いたものを丹念に読み(その一部をリーフレットの末尾に掲げています)、どうもこちらの方が正しいのではないかと考えるようになりました。残念なことは、これまでCO₂等による温暖化論者と非CO₂説派の人々との間で、科学的な議論がほとんどなされてきていないことです。そしてそのために私たちはほんとうのことを考える機会が失われているのです。



↑ 広瀬隆『二酸化炭素温暖化説の崩壊』

(2010・集英社新書)に、両者の対決的議論がなされた

興味深い次のようなエピソードが記されています(71頁)

この話からも分るように、CO₂等による温暖化論は、決して盤石などではなく、実は説得力に欠けるもののようにも思われます。

二〇〇九年一〇月一七日に、私の住む東京都杉並区で、赤祖父氏と、IPCC論の信奉者である東北大学・明日香^{あすか}香壽川^{かじょうせん}教授が対決するかのような珍しいシンポジウムが開かれた。赤祖父氏がどれほど冷静で誠実であるかは、次々とくり出される科学的な実証資料を見れば一目瞭然であった。一方のIPCC側の教授は、江守と組んで文部科学省の金で前述の問題冊子をつくった一人であり、赤祖父氏に何も反論できず、「消費量を減らすことが大切です」などと子供でも言える退屈きわまりない話を一時間も続けて逃げまくった。最後に聴衆が見えないほどのスピードで反論資料と称するものを一瞬だけ出して、「これは江守さんのものです」と言って自分でそのグラフを説明もできないままであった。

このような状況を受けて、私たちは皆さんに、この温暖化問題をご自身で考えていただくためのきっかけになればと思います、このリーフレットを作りました。お役に立てば幸いです。

2021年12月1日

「みどり・山梨」温暖化問題検討委員会